親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿 てらす

No.57
令和６年６月１日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山５-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

リレーコラム No.13

当山に納められた早苗氏書
（早苗秀鳳＝雅号）の日照上人短歌

昨年大晦日に逝去された早苗靖夫（平兵衛十一代*）さんは、お檀家でその年に迎えられる方々の毎年の法要案内に、「新盆を迎える方々へ」を同封させていただいております。本年盂蘭盆会は、早苗さんも新盆をお迎えになります。あらためて故人のご遺徳とご供養を申し上げる次第です。　＊（前号の「平兵衛十二代」を訂正します）

新盆を迎える方へ

昭和四十六年五月、小生の父は彼岸の人となりました。その年のお施餓鬼が新盆に当たる訳ですが、当時、妙壽寺の婦人会の中に、太田婦久さんという小柄な上品なご婦人がおられました。父は総代を仰せつかって居た関係で婦人会の方々とは親交があり、小生共々本当に親しく可愛がって下さいました。

新盆を迎える前に、その太田さんが「早苗さん、お父様が亡くなられてまだ日も浅くお忙しいと思いますが、今年のお施餓鬼には何が何でもいらっしゃいね。」と特に言葉をかけてくださいました。小生は伺うつもりにしておりましたが、「ハイ。」とだけご返事申しました。続けて「その年一年に亡くなられた方のお戒名をお上人が全部読み上げて下さるの。全部一緒というのは後にも先にも一度だけ、不思議な感慨ですよ。」と話してくださったのです。

今のお上人の母上、日恵尼上人から故人となった父が頂いたお戒名です。

葬儀の時にお上人が涙してあげてくださったお経、お題目、忘れもしません。そして迎えたお施餓鬼は、太田さんがおっしゃった様に、真に感無量のものがございました。

色々の事柄が次々と思い出されたことは勿論でしたが、親子ですから良い時ばかりで無く言い争った事もあった訳でしたが、不思議と良いことばかり思い出されておりました。夏の背広を汗が通してしまう程の暑さのお施餓鬼でしたが、それも忘れて居たと思います。大勢のお僧侶方、檀信徒の方々のお経、お題目に送られ、これで本当に天上に向かってきれいになって、父が旅立って行った様な気持ちを覚えております。

今年のお施餓鬼ももう直ぐです。新盆を迎えられるお家の方も沢山お有りと存じますが、仏様になられた方のご縁の深かった方一人でも多く列席され、心からお題目を唱えてお焼香されることをおすすめいたします。

五年後、母を送りましたときも同様の感慨に浸りましたことも付け加えさせていただきます。

令和五年六月　　本覚山妙壽寺　総代　早苗靖夫　合掌

株式会社　地球の歩き方　発行

桜満開の墓所

夕暮れ時に明かりを灯す鍋島客殿

山吹色に染まる鮮やかなヤマブキ

満開で迎えた「つつじ観賞会」

春爛漫

寺日記 てらにっき

- ●2月24日　第15回納骨堂建設委員会
- ●2月26日　沼津南之坊先代内室四十九日忌法要
- ●2月26日　東京都仏教連合会理事会
- ●3月6日　興隆学林卒業式・学務協
  写真＝右：平島盛龍教授
  中央：ご長男・祐龍師ご卒業❶
- ●3月10日　東京大空襲慰霊法要　於 両国・東京慰霊堂（写真 正木正一・健将氏）❷
- ●3月16日　工藤家（当山総代工藤敏勝氏ご長女）結婚披露宴　於 白金台・八芳園
- ●3月20日　春季彼岸会中日合同法要
- ●4月8日　烏山仏教会花祭り法要　於 常福寺
- ●4月8日　仏教主義学校連盟主催「花まつり」　於 横浜・清風高校
- ●4月9日　湯島天満宮今日庵献茶式奉賛茶会
- ●4月11日　法華宗千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要❸
- ●4月16日　裏千家淡交会地区協議会　於 ホテルニューオータニ
- ●4月17日　法隆寺文化財修復支援茶会　於 東京美術倶楽部
- ●4月19日　新谷仁海上人（下谷・功徳林寺）導師総本山知恩院御忌法要・祝賀会　於 ホテルオークラ京都
- ●4月20日・21日　つつじ観賞会（右上の「春爛漫」写真参照）
- ●4月21日　第16回納骨堂建設委員会
- ●4月29日　築地本願寺宗祖御誕生580年・立教開宗800年慶讃法要円成祝賀会　於 箱崎ロイヤルパークホテル
- ●4月30日　大僧正日照上人・内室慈恵院第七十回忌、智覚院日恵尼上人祥月忌　導師・佐々木明乗上人
- ●4月30日　沼津市吉祥院佐藤光徳上人ご遷化
- ●5月3日弔問
- ●5月1日　淡交会第6東支部茶会　於 明治記念館
- ●5月2日　猿江稲荷礼大祭法要・懇親昼食会　於 日本橋倶楽部
- ●5月2日　桜井露葉先生（婦人会）日本書鏡院選抜展出展　於 銀座鳩居堂❹
- ●5月4日　東京都仏教連合会監査会
- ●5月10日　東茶会　席主広尾祥雲寺　岩崎宗瑞師　於 東京美術倶楽部
- ●5月13日　浅草・下谷仏教会主催　遠州流茶会
- ●5月14日　東京都仏教連合会監査会　於 人形町・よし梅
- ●5月16日　全日本仏教会理事会　於 芝・明照会館

桑港・日蓮教会　3月24日　春季彼岸会法要・花まつり法要❺
3月25日　木下家葬儀追悼法要　於 サクラメントメモリアルセメタリー❻

鵠沼・晴明庵　4月24日　第四世藤波法尼祥月命日忌法要・歴代婦人会追善供養

猿江・猿江別院　5月2日　猿江稲荷春季大祭❼

法要のご案内（別紙参照）

7月16日（火）
孟蘭盆会施餓鬼法要
新孟蘭盆会法要（新盆）：午前11時　時孟蘭盆会法要：午後２時
動物諸霊法要：正12時

8月15日（木）
終戦戦没者八十回忌慰霊法要
午前11時　当山本堂

9月1日（日）
関東大震災遭難者慰霊法要
午前10時　両国・東京慰霊堂

9月22日（日）
秋季彼岸会中日法要
初座：午前11時　第二座：午後２時　動物諸霊法要：正12時

11月3日（日）
宗祖日蓮聖人第743遠御忌御会式
午後２時

予告
第14回 竹灯籠能・落語会
日程：令和6年10月27日（日）13:00～　会場：妙壽寺本堂
能（演目未定）▶浅見慈一　落語▶春風亭一之輔

新規墓所ご案内
３尺×４尺＝３基
３尺×３尺＝６基
２尺×２尺＝８基
詳細は当山までお問い合わせください。

正隆会【SHORYU-kai】

月例講ご案内
午後２時開催

当山では、毎月第２土曜日午後２時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回１時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

６月　８日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読８
７月　６日（土）	写経会
８月	休講
９月14日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読９
10月12日（土）	課外活動（猿江別院御会式・清興落語会＜予定＞）
11月　９日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読10
12月　７日（土）	二千遍唱題会・勉強会「法華経への誘い」拝読11
１月11日（土）	初題目・勉強会「法華経への誘い」拝読12
２月　８日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読13

当住上人の 宗務院 DIARY

内局会議　3/13，4/12，5/21
3/11　宗門布教機関連絡会議・東日本大震災慰霊・能登地震犠牲者慰霊法要　於 宗務院
3/15　第34回法華宗教学研究発表大会❽当住上人
4/11　法華宗奉讃会総務会
4/12　責任役員会議
4/15　「無上道」編集会議
4/17　法華宗連絡協議会カレンダー会議　於 品川・天妙国寺
4/22　宗務顧問会　於 尼崎・都ホテル
4/23　興隆学林後援会幹事会　於 尼崎・都ホテル
5/2　教学研究所所員会議（ズーム）
5/21　責任役員会議・議事運営委員会
5/22・23　法華宗第79次定期宗会

❽

猿江別院御写経会

8月8日（木）・10月3日（木）
12月5日（木）・2月13日（木）
※毎回 木曜日13時～19時　参加費：500円

正隆廟に椎名家より篤志いただいた碑を正面左側に建立（5月11日）

俳句事始

如月 睦月 卯月

蠟梅の足元にあり姫菫
幼稚園花壇三色菫あり
箱根路の阿弥陀寺訪えば黒椿
満開のミモザで作る妻レース
赤白の椿ちぎり絵ごとくあり
新樹濃く薄く遠くへ重ねれり
足もとに薄紫の犬ふぐり
たんぽぽの絮を啄む雀たち

鴉鵠

④

③

②

①

⑦

⑥

⑤

インタビュー

高橋顕昭上人

（大阪・妙道寺住職）

聞き手 三吉廣明上人
同 席 石塚泰道師

令和6年2月2日 於 伊豆稲取

当山とのご縁

住職 こんにちは。今日は、残念ながら高橋顕昭上人の弟さんの瀬田石篤さんがお亡くなり、お上人がお悔やみに大阪から伊豆稲取に来ておられます。なかなかこういう機会もないので、お上人の妙壽寺とのご縁を聞かせていただこうと思っております。遡ると、お上人のお生まれは杉並区荻窪ですか。

高橋上人 （以下、敬称略）西荻です。

住職 それは上人のお母様（やす刀自）と私の曽祖母（旧姓内山ぎん＝三吉日研上人室）の出身がここ伊豆の稲取で、そこから妙壽寺に来ていたわけですか。

高橋 私の母親が妙壽寺へ行儀見習い、お手伝いとして行っていたのではないかと思います。

住職 そこで、お父様の瀬田石顕浄上人と知り合って結婚されて。

高橋 そういうことでしょうね。

住職 所帯は結局…。

高橋 父は秋田県花輪の生まれです。その当時には西荻に住んでいたんじゃないんですか。

住職 それでは、篤さんも西荻で生まれたのですか。

高橋 いえ、京都です。妹の三千代も（大本山）妙蓮寺の塔頭の本妙院で生まれています。

住職 お上人は昭和10年6月24日に西荻で生まれて、それから結局、お父様に（先々代）日照上人からお話があって、妙蓮寺に行きなさい（塔頭本妙院の住職として）ということで。そのときは家族3人で、お上人は赤ちゃんだったわけですか。

高橋 そうです。

住職 それで、顕浄上人の出家前の名前は…。

高橋 信吾。我信ずるなりです。亡くなったのは20年8月10日です。

住職 それはフィリピンのルソン島ですか。

高橋 そうです。調布のおじさん（三吉豊久）が、「おまえさんのお父さんの亡くなったところへ行ってきたぞ」と言ってはった。それで、おまえさんも行ってくるといいよと言われたけど、行く機会はなかったですわね、残念ながら。

住職 そうですか。それで、20年に亡くなって、お上人がご幼少のころは隣が常住院さんで、小笠原日堂上人（大本山妙蓮寺加歴・執事長、興隆学林教授）がおられた。小笠原上人の娘・和子（現松本）さんとはちっちゃい頃から知っている。

高橋 幼なじみですね。

高橋上人（近影）

住職 そして、その後結局、お父様が戦死されて。

高橋 戦病死です。

住職 子供は何人ですか。

高橋 3人です。

住職 子供3人で秋田に行かれたわけですか。

高橋 いえいえ、僕だけです。父のお葬式の前から僕だけそれこそ秋田の伯父の元にね。

住職 瀬田石誠一さんですね。

高橋 そうです。そこで、小学校の5年から高校卒業するまでおりましたから。その頃に、弟が秋田へ来ましたので、ほんまに10何年ぶりぐらいかな。親子3人が一緒になったということです。でもあの当時に、よう伯父に引き取ってもろうたもんやなと思いますよ。

住職 それから29年に妙壽寺に来られて…。

高橋 3月に妙壽寺さんへご厄介になりました。それも、僕は多分、おやじが兵隊に行くときに、師匠の御前さん（日照上人）と、おやじとの間で話ができていたんじゃないかなと思う。だって、僕、今つらつら考えてみたら、秋田へ引き取られて、そういうことは随分やらされた。法事の前の日になったら、位牌を頂きに行って持って帰り、伯父の家の仏壇の前で、法事の位牌を全部並べたりして。法事が終わったら、またそれこそお返しにお寺へ伺ったものです。法事や何かのときは必ず伯父がお寺へ位牌を取りに行ってこいとか、それから、お盆の仏壇のお祭りとか、お盆には必ず、「昭、これをせいよ」と、ようやらされましたな。

住職 そのときの花輪の本勝寺のご住職はどなたですか。

高橋 石井日温上人です。父親の従兄で、何かあったときにはすぐにお世話になる。それから、よう本能寺に来られたら、僕がご挨拶に伺う。ご挨拶に伺ったら、「皆さん、この人は私の従兄の瀬田石顕浄の息子で大阪・妙道寺の高橋顕昭です、よろしく」とよう言うてくれはった。（笑）

住職 石井上人の晩年、昭和56年の宗祖御遠忌にお伺いしたときに、本山の長老でいらして歩いておられた姿をちょっと記憶しています。

高橋 お元気なお方でした。いつでもそれこそ顕昭さん、顕昭さんと言って、かわいがっていただいた。ありがたいことでね。

日照上人夫妻の遷化（逝去）の頃

住職 妙壽寺に来たときは、日照上人と勝子夫人は元気だったわけですね。

高橋 そう。日照上人のもとへ入った後に、日照上人は初め疑心暗鬼でなかったのかな。あまりにもこっちは引っ込み思案だから。それで、経本をそれこそ半年以上たってから憶えましたからね。だって、上に智康（矢吹）さんと小澤（恵壽）さんがおられたから、2人はもうできはったから。こっちははみ出しもんだということだったからね、あんまりそういうことはなかったでしたけどね。ほんまにそれこそ、「おまえさん、得度するか」と言われたときには、はっきり「します」と僕は御前さんに申し上げた。

住職 では、すぐに得度したわけではなかったのですね。

高橋 違う違う。3月に入って、11月の御会式のときですからね。

住職 4月からは立正大学に入られたのですか。

高橋 二部の文学部社会学科です。

住職 二部ということは、夕方の5時とか6時ぐらいから講義が始まった。

高橋 そうです。4時ぐらいになったら、本堂からずっと庫裏の雨戸を全部閉めて、お霊供を下げて、それから3人そろって、出ていくときは3人一緒に出ていく。帰ってくるときは知りませんね。大概、一番早かったのは僕ですわ。あるときに小沢さんに言われたもんよ。あんた、あんまり早く帰ってくるなって。（笑） みんなばれてしまうやない。だから、あんまり早く帰ってきたらあかんと言われる。

住職 その昭和29年に来たときに、妙壽寺は誰がおられたのですか。

高橋 御前さんご夫婦。恵子さん（日照上人五女）と盛高（勢以）さんと、それから矢吹一郎（泰英上人）さんと弟・智康さん、小沢（恵壽上人）さん、後に一郎さんの奥さんになるユキイ（柏原）さんがおられたね。それから、古澤さんの娘で、僕と同じ歳の雅子（山本＝旧姓・古澤）ちゃん。

住職 けれど、お上人が来て1年で、先に勝子夫人が4月3日で、御前さんが4月12日に亡くなられて、その当時は大変でしたね。

高橋 いやー、あのときのことは忘れない。どんな人も忘れることはできない。だって、一番に盛高のおばちゃんに起こされたんだ。「奥さんが変だから、すぐ奥へ行きなさい」と言われ、飛んでいったときにはもう奥さんは息がなかった。

住職 そうですか。そのときには御前さんは入院していたんですね。

高橋 入院していたの。それも事もあろうに、御前さんは盲腸で入院しはった。

住職 盲腸ではなくて心臓病だと聞いていましたけど。

高橋 盲腸で入院したけど、実際、病院へ行って、院長が診察した結果、「とんでもない、心臓だよ、もっともっと悪いじゃないか」ということだった。御前さんがいよいよ危篤だと言われたときに、本堂へ行ったら、早苗靖夫さんのお父様（博行氏）が一生懸命、あそこのお焼香台のそばに座って、南無妙法蓮華経を唱えていた。あの姿が神々しいてね。あの人はすごかった。それで、僕も母親に、一緒になってお題目を唱えなさいと怒られた。

住職 誰にですか。

高橋 母親に。御前さんが入院しはったとき、母親のところへ電報を打ったの。母親も自分の旦那のお師匠さんやから、すぐ飛んできて、そばについていてくれたんです。それで、御前さんが入院しはって、勝子夫人が亡くなられて、お帰りになって。そうしたら、それこそ法事の木鉦の音が聞こえんようにというわけで、御前さんのお居間をそれこそ真っ暗にしてしもうて。本堂から光や音が聞こえんようにと、木鉦でもそんなにきつくたたいたらあかんということになって。ゆっくりゆっくりと…。

住職 結局、御前さんには知らせたんですね。

高橋 知らせています。あのときには、最初に行ったのが池田（東海）さん。それから、調布のおじさんと。お二人でもって病院まで御前さんに報告に行っているわけ。ところが、調布のおじさんは声が出えへん。自分のお姉さんが先に亡くなったばっかりやから。それで、池田さんが全部御前さんにお話ししました。それで、御前さんがそれこそ、それじゃもう退院しようというわけで帰ってこられました。僕はあのときの御前さんのお姿を見て、こんなに変わりはるものかなと思うた。しんどそうにして。玄関でお迎えに出たときに、「あ、おまえさんか」と、この声が弱々しいてね。ほんまにあれは悲しかった。

今でも僕はありがたいことに、御前さんに、掃除の方法というのはなぜこういうふうにするかということをよく覚えておきなさいと。それから、もう1つ言われることがあったのは、これは忘れもしない。ちょうど御前さんが洗面所の銅（アカ）の台で顔を洗うておられる。こういう具合に御前さんに言われたことがあった。御前さんというのはいろいろなことをご存じなものやなと思うたわ。さすがやなと思うた。

しかし、僕が一番やっぱりうれしいのは、おやじと同じお師匠さんに仕えられたということがほんまにうれしかった。結局、おやじのことがあったから、奥さんに本当に、昭ちゃん、昭ちゃんとお尻をたたかれて。ほんまにたたいたわけじゃないですよ。追い回されて、仕事を一つ一つ覚えさせてもろうた。これはほんまにありがたかったなと思うんですよね。それはもうずっとそれこそ続いていますわ。

住職 日天上人（石田日天上人＝日照上人実弟）が帰ってこられたときは、どこで寝泊まりしていたんですか。妙壽寺ですか。

高橋 僕はそこら辺のところはよく分からない。おふくろが面倒を見ていた。しかし、僕は、かわいそうになと思ったのは、涙が出そうになったのは顕道上人（当住廣明上人師父）。ほんまに気の毒やったなと。盛高のおばちゃんに、「今日、顕道（あきみち）ちゃんが帰ってくるから」と言われて、玄関の門のところに出たの。そうしたら、みすぼらしい格好でね。背広だけ着て、とぼとぼ歩いて帰ってきはる人があった。それが顕道上人やった。僕、まさかそれが顕道上人やと思わなんだ。あまりにもそれこそかわいそうで。それで、とにかく顕道上人がお帰りになったからと言うて、盛高のおばちゃんは、「あんたはどこも行かないで、顕道ちゃんの手伝いをしてあげて」と、言われた。そのときは「僕かてもう、御前さんの元を離れて、どこへ行っていいか分からへん。おばちゃん、心配しなくてもいいよ」と言うて。

住職 そういう時は、日天上人はお声をかけてくれなかったのですか。

高橋 かけていない。日天上人が声をかけられたのは、アメリカへ行かないかということを言われた。僕は今になったら、行かなくてよかったなと思う。多分それは、おふくろもそれこそ、行きなさいとか言わなかったものね。おふくろはある程度知って、分かっていたんじゃないかな。

僕は最初の間、顕道上人にあれしなさい、これしなさいと追い回された。追い回されたとき、ほんまに最初は腹が立ったこともあったけれども、後にひょっと思い出して、ちょっと待てよと。せっかくよう言いつけてしてくれてはるんやから、この際、私情は一切合財捨てて、とにかく物を覚えようと、それが先決やなと思った。それから自分の人生がころっと変わった感じでね。顕道上人にあれしなさい、これしなさいと言われたって、腹が立つこともなかった。どんどん言われていたけど、仕事はこなした。その代わり、ほんまに顕道上人と、それから妙恵奥さんには、こよなくかわいがっていただいて。それはいまだに感謝に堪えない。

だって、あの当時、何ぼそれこそ、言うてしまえば所化の身でしょう。弟子じゃない。所化の身なの。所化の身であっても、年に一遍か二回ぐらいは、わざわざ伊東まで、信者さんのところまでお使いに行ってきなさいと、行くわけです。行ったら、帰りしなは秀水園さんに寄りなさいと。行ったら、そこで泊まって帰ってきなさいと。それはもうほんまにうれしかった。こんなことを言ったらいかんけど、息抜きの場所じゃない、一晩でもね。

それから僕は時々ご信者の家へ行くと、顕道上人と奥さんの名前は必ず出てくる。それだけうれしかったですよね。

住職 お上人は所化さんでも一番下で、その頃は、二十二、三歳ですね。妙壽寺内のことは関与もしていないし、お話も伝わっていないということですね。

高橋 ただ、僕が大阪、二、三年ぐらい前から、顕道上人によく言われたのは、総代会があったら、君もここにおるようにと、それをよく言われた。なぜかというと、判取帳というて帳面があって、大工さんやら植木屋さんが入ったら、その帳面に金額と店の名前を書いて、判こをもろうて。早苗さんなどに何か質問があったら、答えるようにというわけです。ただ、一番困ったのは、朝、顕道上人が出かけるときに、「昭ちゃん、今日、大工さんが来るから、あそこのところを直すから、よく話を聞いておくように」と。要は、どういう具合に直すのか全然分からないわけです。でも、大工さんから一遍一遍報告してくれた。そこまで信用していただいたら、これほどうれしいことはなかった。

それと、深川の地所の集金です。猿江まで毎月2回行っていた。それで、地代を上げる時期が来たら、世田谷の税務署まで行って、計算方法を教えてもろうて、それを持って帰ってきて、それこそ20何軒かあったでしょう。

住職 ええ、ありました。

高橋 それを一軒一軒全部計算して、こうこうこうだから、今度、お寺のほうで地代を上げなきゃ困るんですと呼びかけて、一軒一軒訪ね回って、地代の値上げをお願いしたことがありました。駄目だと言う人は一人もなかった。

当山から大阪東淀川区の妙道寺へ

住職 お上人、お寺のことに話を戻しますが、日照上人が昭和30年4月に亡くなって、日天上人がアメリカからすぐ来られて、私の父親は一月か二月遅れて帰ってきて、一緒に暮らしていたわけですね。だけど、日天上人は実際には三月か半年でアメリカに帰られた。名義だけは住職のままで。

高橋 そうそう。

住職 それで顕道上人が住職になられた。

高橋 2年たってすぐに顕道上人になりましたね。

住職 凝縮しているのは、その30年に亡くなる、師父が帰ってくる、もう翌年には結婚しているんです。その間は、お上人は大学を終わっていて、いわゆる妙壽寺に所化さんとしてずっといてくれたわけですね。

高橋 そうです。だから、僕は（妙壽寺を）全然出ていないんですよね。事実、1年ぐらいたって、三回忌が終わったら、小澤さんも法華講堂へ行ってしまう。智康さんは大宮の小学校の教師で行ってしまう。結果的に僕一人だけになってしまった。

住職 こういう話は、お嬢さんの法（のり＝高橋法子ご長女）ちゃん、三恵ちゃん（三女）とかにするんですか。

高橋 たまにする。でもあまり苦労したことは言わない。御前さんという人はこうやった、顕道上人、妙恵上人はこういう人やったという話はちょこちょこしている。盛高のおばちゃんを入れて、やっぱりこの4人は、僕には忘れられへん。

住職 そうですね。お上人が先年亡くなられた奥様と一緒になっていたときは、奥様のご両親は両方ともおられたのですか。

高橋 僕が大阪へ行ったときには父親がおらなんだ。もう跡継ぎがなかったので、結局僕が行ったということで。

住職 入ってすぐに住職になられたわけですか。

高橋 大阪へ行ってすぐに興隆学林へ行くようにというわけで、僕は2年の後期から行っているんです。それでも一応、それこそ学林卒業証書を頂けたから。宏尊（こうそん＝松井日宏猊下）のおかげでしょうな。

住職 それで、妙道寺（東淀川区淡路）さんから枚方まで行っていたわけですか。

高橋 そうです。毎日通っていた。それも2年半。

住職 その当時は大苅（刈谷日任猊下＝学林長）先生もいらしたんですか、苅谷先生のお父様。

高橋 おられた。それで、本能寺の貫首が苅谷御前から松井御前に替わったときやった。松井御前にはこんなことを言われた。君、普通ならばここでも弟子衆がするのが当たり前なんだと。君、どうすると言われた。そのときに、僕はやっぱり御前さんのことは忘れないと思って、「申し訳ありませんが、私、師匠は三吉日照一人です」と申し上げたら、宏尊も、「そうか。では、そうしたまえ」と、一言でしたね。

住職 なるほどね。

高橋 宏尊も偉い人やったんですな、そこのところをちゃんと酌み取って、三吉日照でぜひと言うてくれはったことでね。しかし、今思い返したら、妙壽寺の6年間というのはほんまにいろんなことがありました。

住職 激動ですね。

高橋 そうです。一番それこそ、加藤真次郎さんにこんなことを言われた。あなたには妙壽寺の一番つらいときに一番よう動いていただいたということを言っていただいて、ほんまにこの言葉がうれしかった。その言葉を励みに大阪へ行っても頑張れた。（笑）

住職 （笑） 妙壽寺も私が何とか取りあえず住職はしている状態ですけど。

高橋 父親の代からでしょう。やはり二代続いてご厄介になって、いろいろお導きいただいたんです。私にとったらほんまにありがたいお寺です。だから、私はそれこそ第二の心のふるさとは妙壽寺さんですというのはそこにありますね。

住職 お上人にはいろいろな当時のお話を伺え、よかったと思います。ありがとうございました。

高橋 いやいや、ありがとうございます。（了）

左より、石塚泰道師、高橋上人、三吉当住上人

妙壽寺に来られた頃の高橋上人（左）
（右 石塚泰道師、昭和 32 年頃）